



生活様式が大きく変わったJAや組合員の皆さまに贈る日本農業新聞の読みどころ集です。「この1週間を振り返る」ため週刊でお届けします。



日本農業新聞の読みどころ

週刊ダイジェスト

2021年10/30～11/5付

自民、絶対安定多数



衆院選

公示前議席

野党共闘不

第49回衆院選は31日、投票日を迎えた。自民党は公示前から議席を減らしたが、単独で過半数(233議席)を超え、国会を安定的に運営できる「絶対安定多数」(261議席)を確保しました。与党は米政策で2020年産在庫米の長期保管を支援する対策を掲げました。一方で立憲民主党を中心に小選挙区で候補者を一本化した野党は、戸別所得補償制度の復活や国による過剰米の買い入れを掲げ、与党との対立軸を鮮明にしました。(11/1付1面)

自民は261議席で、2020年産在庫米の長期保管を支援する対策を掲げた。公示前は233議席で、2020年産在庫米の長期保管を支援する対策を掲げた。公示前は233議席で、2020年産在庫米の長期保管を支援する対策を掲げた。

第49回衆院選で自民党は公示前から議席を減らしましたが、単独で過半数(233議席)を超え、国会を安定的に運営できる「絶対安定多数」(261議席)を確保しました。与党は米政策で2020年産在庫米の長期保管を支援する対策を掲げました。一方で立憲民主党を中心に小選挙区で候補者を一本化した野党は、戸別所得補償制度の復活や国による過剰米の買い入れを掲げ、与党との対立軸を鮮明にしました。(11/1付1面)

JA全中は第29回JA全国大会を東京都港区で開きました。「持続可能な農業・地域共生の未来づくり」を主題に、2022年度から3年間の取り組み方針を示した決議を採択。決議ではJAグループの10年後に目指す姿を確認しました。地域農業の振興では多様な担い手に注目し、将来の担い手を確保する「次世代総点検運動」や、中小・家族経営など既存の担い手が営農を続けるための支援に力を入れます。(10/30付1面)

次代と持続的農業へ



JA全国大会
会場の様子

担い手確保「総点検」

JA全国大会

決議採択

JA全中は30日、第29回JA全国大会を東京都港区で開いた。「持続可能な農業・地域共生の未来づくり」を主題に、2022年度から3年間の取り組み方針を示した決議を採択。決議ではJAグループの10年後に目指す姿を確認しました。地域農業の振興では多様な担い手に注目し、将来の担い手を確保する「次世代総点検運動」や、中小・家族経営など既存の担い手が営農を続けるための支援に力を入れます。(10/30付1面)

今週の記念日

★11月11日
「たくあんの日」
全国各地の漬物協同組合、製造業、卸売業などの団体で構成される全日本漬物協同組合連合会が制定。日本の漬物の代表格であるたくあんの需要拡大を図ることが目的。たくあん漬けは天日干しや塩漬けで水分を抜いた大根を漬けたもの。日付は11月11日という文字が、たくあん用の大根を並べてほしてある様子に似ていることから。

<日本記念日協会から>

強みは通年

繁殖と肥育両方を手掛け、牧場を前経営者から継承し増頭にも成功した。「お肉のニュージャシ」をコンセプトに、イノシシ肉の味覚を全国に広め販路拡大を目指す。山梨県笛吹市の出身。青森県内の大学へ進学し組織論を学んだ。北海道新幹線開通で奥津軽いまべつ駅が開設された町の振興にゼミで関わるように

はこ 町 高職 就職 で知 うち の移 17 継承 始め



飼育するイノシシをなでる依田さん（青森県今別町で〓本人提供）

今世紀末、トウモロコシ24%減収

この「感染症緊急支援
食料中期緊急対策
事業(案)」は、市議
会内に設置された、新
型コロナウイルス感
染対策調査特別委員
会が、10月7日に示した
10月7日～21年産米
の仕入れが増大し、概算
生産が減る、農業者の生
計が危ぶまれる、感
染症患者が出ないよう、
11月上旬の臨時市議
会で決定し、2月下旬
にはJ市庁へ新みや
ぎ(みどり)の地区生
産いわで、各農家
を通過して対象者へ

やすくなると
これらの影
時期も、前回



Yoko Kato